

厚生労働省社会保障審議会推薦児童福祉文化財

あいち国際女性映画祭オープニング作品

ふるさと広島に原爆がおちた日、
母の白いブラウスに黒い雨の跡が…
今でも目にやきついています。



企画 榎坪多鶴子

今、伝えたい

平和を祈る子ども達の声

平和が好き

ほんとうのやさしさが好き

ほんとうのしあわせが好き

みんなのしあわせが好き

名越操「しあわせが好き」より



少女の夢

～いのち つないで～



監督・脚本 光永憲之 中平悠里

出演 東島愛海 後藤紗良 加藤忍 木島知草 (人形劇) 紺野美沙子 (たづの声)

製作 光永憲之 音楽 光永龍太郎 撮影 吉田貴彦 編集 西尾光男 照明 梅田友絵 録音 小黒健太郎 整音・効果 高木創

企画協力 岡本太郎「明日の神話」NPO 法人明日の神話保全継承機構 参考資料 田口ランディ「被爆のマリア」文藝春秋社刊

企画制作 パオ (有) 『少女の夢』製作委員会 www.pao-jp.com

劇映画

1時間13分 白黒 (部分カラー)
スタンダード ブルーレイ

槇坪夢鶴子のメッセージ

この映画は、私の過ごした戦後間もない広島の小さな村が舞台です。

私は、「命、愛、共生」をテーマに7本の映画を作りました。いのちと愛のメッセージをテーマとした3部作『子どもたちへ』『若人よ』『地球っ子』。自分らしく生きる大切さを描いた『わたしが SuKi』。老いた親の介護を通して自立と共生を問いかける『老親ろうしん』。ユニークな有料介護ホームを舞台に家族の愛を描いた『母のいる場所』。そして、「自閉症」とその家族への理解を深める映画『星の国から孫ふたり』。

その想いの原点が、山間部の小さな共同体での様々な体験にありました。お互いに認め合う心を、未来に向かってつないでいって欲しいと願っております。



槇坪夢鶴子

1940年生まれ。広島出身。デビュー作の「子どもたちへ」で文部省特選を得る。第6回作品「老親」で第17回山路ふみ子映画賞福祉賞、第20回藤本賞特別賞を受賞。

平和 いのち 共生

5歳の時、広島で原爆を体験した映画監督・槇坪夢鶴子。平和を願う強い思いは、生涯、彼女の脳裏から消え去ることはありませんでした。価値観の違うもの同士、国同士がいかに関わり合い、認め合いながら、共に助け、助けられる「共生」の意義を問いつづけた槇坪作品。その生い立ちに触れることで、私たちが「これからどう生きてゆくのか」を問いかけるものです。



製作協力：株式会社 序破急（八丁座・サロンシネマ・シネツイン）
槇坪病院 広島フィルム・コミッション 北野高校 71 期有志
シネマ・キャラバン V.A.G

ものがたり

昭和23年。たづ（7歳）は、母さちと共に大阪に復員したまま戻らぬ父、明男の帰りを待ち望んでいた。

平和になったとはいえ、戦争の影響が色濃く残る村では、原爆で父を失い被爆の後遺症に苦しむ姉、香里（14歳）を慕う里江（7歳）や、戦争のトラウマで精神を病む父を支える徹男（7歳）、母を病気で失った仙一（3歳）たちが、差別や偏見に傷つきながらも懸命に生きていた。子どもたちが心を癒す唯一の楽しみは「紙芝居」だった。

ある日、たづは不思議な本と巡り合う。そこには、人間と大地の関わりが美しく描かれ、生命が循環しながら生かされ生かされている世界が綴られている。

そして、たづは、仙一や友達のために、その物語を紙芝居にしたいと担任の伊藤に相談する。原爆で父親を亡くした伊藤も、子どもたちに”命の尊さ”を伝えたいと考えていた。

「しあわせが好き」を神社の境内で演じる子どもたち。村人たちにも笑顔があふれる。数日後、さちはある決意をたづに告げる……。



シネマ・キャラバン V.A.G

企画制作 **パオ** (有) 『少女の夢』製作委員会 www.pao-jp.com Tel.03(3327)3150 Fax.03(5376)8462

向井修 尾田星生 足立建夫 山本弘 小松健悦 小椋毅 竹岡真悟 小館絵梨 蓬萊照子 マエダユミ 伊藤ゆきえ 山内育香 桑田亜紀 大塚千尋 (子役) 屋島昂太 竹内一紘 春本龍兵 紙谷仁美
プロデューサー 片原一成 衣裳 森脇茂 メイク 一山あい子 記録 沢田知子 VFX 西尾健太郎 田中勉 石野萌子 本編集 服部一太 カラリスト 関口正人 製作主任 買下弘典 助監督 佐藤和生 スチール 宮田博
録音スタジオ 東京テレビセンター 照明機材 日本照明 衣裳 東京衣裳 装飾 高津装飾美術 現像所 IMAGICA